

2011年5月

パンパンこわへひ教室新聞

前月はデジカメの性能について簡単にお話ししましたが、今月はちよつとした撮影の工夫について。

ISO値

デジタルカメラは、「レンズ」から量と時間で間を調整し光を通し、「撮像素子」で電気信号に変えて記録します。それをカメラの実際の機能で見ると、光の量を調節するのは「絞り」、光が当たる時間を調節するのは「シャッタースピード」、電気信号の量は「ISO値」にあたります。

オート機能で撮影してもある程度は失敗しない撮影が出来ると思いますが、この3つを上手く使えるようになると、写真の楽しみは一段階も二段階も上がるのではないか。挑戦の価値あります。

絞り

絞りを「開ける」と光がたくさん取り込めますし、「絞ると」取り込める光は少なくなります。単純には、明るいところでは「絞り」、暗いところでは「明ける」という操作になります。もうひとつ重要な役割の合つ範囲にも影響がある点です。

絞り

絞り値を小さくするとピントの合う範囲が狭くなります。大きくすると広くなりますが、被写体全体にピントを合わせながら、絞り値を大きく、一部の被写体にピントを合わせなければ絞り値を小さく設定します。

絞り

(人物にピントが合って、背景がボケたような写真は「絞り値」が小さく設定されていますね。)

シャッタースピード

シャッタースピードが「早い」と光を取り込む量が少くなり、「遅い」と多くなります。単純には、明るいところでは「早く」、暗いところでは「遅く」の設定です。また、動きの速い被写体を「動きを止めた」ようにする場合は「早く」、「遅く」する動きを表現するために「遅く」する場合もあります。

シャッタースピード

(渓流の流れを表現するような場合は「遅く」すると表情のある写真になりますよ。)



仕組みを知ろう

ISO値が高いほど「明るく」記録できます。絞りとシャッタースピードが同じなら、ISO値を倍にすると「倍の明るさ」で記録できます。ただし、取り込んだ光を電気的に増幅するので、暗い場所の撮影など、値を上げるとザラツキなどノイズが発生することもあります。

ISO値の日安↓風景100以下、人物100~200、少し暗い場所・記念写真等400、スポーツシーン・暗い場所800以上

露出

露出とは被写体を最適な明るさで撮影するための、光の量をいいます。絞りに対し、シャッタースピードが、速すぎたり遅すぎたり、シャッタースピードに対し、絞りを絞りすぎたり、明けすぎたり。手動で適正な露出を得ることはなかなか難しいものです。

露出

カメラの撮影モードには、オート、絞り優先、シャッタースピード優先、マニュアルなどのモードがあります。

その時の明るさなどを自動判別して、適切な「絞り」と「シャッタースピード」をカメラが自動設定します。

オート

絞りをマニュアル設定し、シャッタースピードは自動設定。

シャッタースピード優先

シャッタースピードをマニュアル設定し、絞りは自動設定。動きのある被写体を撮影したい時など。

マニュアル

絞りもシャッタースピードも手動で設定します。熟練が必要ですね。

何を撮りたいか、どう表現したいか。失敗しながら挑戦しましょう。

●★それではまた次月!★●